歯槽粘膜に発生した神経鞘腫の1例

亀谷明秀・中谷善幸・小林明男
磯貝昌彦・柴田寛一

A case of neurilemmoma of the alveolar mucosa

Akihide KAMEGAI・Yoshiyuki NAKATANI・Akio KOBAYASHI
Masahiko ISOGAI・Kan-ichi SHIBATA

はじめに

Schwann 細胞に由来する外胚葉系の腫瘍である神経鞘腫は、WHOの組織学的分類によると、全身的には軟部良性腫瘍の中では血管腫、脂肪腫に次いで多いが、顎口腔領域での報告は比較的少ないようで、特に歯槽粘膜に発生したものは本邦報告にはみられない。

われわれは、下顎歯槽粘膜部に発生した神経鞘腫の1例を経験したので、その概要を報告するとともに、本邦における顎口腔領域に発生した神経鞘腫の既報108例と、自験1例の計109例より若干の知見を得たので報告する。

症 例

患者：■■■■ 14歳 男性。

初診：昭和53年10月■■日。

主訴：左側下顎小臼歯部頰側歯肉部の無痛性腫瘍。

家族歴、既往歴：特記すべき事項なし。

現病歴：約10年前より左側下顎小臼歯部頰側歯槽粘膜に腫瘍を認めたが、無痛性で機能的にもなんら障害を認めなかったので放置していた。しかし腫瘍の縮小傾向が認められないので本学付属病院口腔外科を受診した。

現症：

全身所見：体格中等度、栄養状態も良好で生来健康である。

局所所見：左側下顎小臼歯部頰側歯槽粘膜に小豆大の無痛性腫瘍を認める。腫瘍は可動性で黄白色を呈し軟骨様硬である。境界は明瞭で圧痛もなく、機能障害、知覚異常も認められない(写真1)。

写真1 口腔内所見

X線所見：骨の変化は認められない。また同部の歯牙、特に13456に異常所見を認めない(写真2)。

臨床検査所見：特記すべき異常は認めない。

臨床診断：Fibroma またはLipoma。

処置および経過：上記診断のもとに局所麻酔下で腫瘍の全摘出を行った。腫瘍は被膜でおおわれ、周囲組織との癒着もなく容易に一塊として摘出でき、骨面の変化は認められなかった。約2年経過した現在、再発傾向もなく予後は良好である。

病理組織所見：写真3に示すように、細胞は Palisading pattern をとり、核は Parallel fashion を示しており、Fascicular type の Antoni A 型の神経鞘腫である。

岐阜歯科大学口腔外科学教室第2講座(主任：柴田寛一教授)

The Second Department of Oral Surgery, Gifu College of Dentistry (Chief: Prof. Kan-ichi Shibata)

受付日：昭和55年9月24日

写真 2 X線写真所見

写真 3 病理組織所見

考 察

Neurilemmoma は Schwann 細胞に由来する外胚葉系の腫瘍である。従来、神経系の腫瘍は、Neurom として扱われてきたが、1863年 Virchow により神経組織より形成されているか、結合組織より形成されているかにより、Neurom と Falsches neurom に分類された²⁾。その後、1882年 von Recklinghausen は、神経系統に発生する線維性腫瘍で、その主構成成分が新生神経線維でないものは、中胚葉性の内外神経鞘より発生するものとして Neurofibroma と名付けた³⁾。

1910年 Verocay⁴⁾は、本腫瘍を外胚葉性神経組織、すなわち Schwann 細胞の増殖によるものとして Neurinoma と命名した。また Antoni⁵⁾は1920年、30例の脊髄腫瘍中、20例の Verocay のいう Neurinoma のあったことを報告し、2型に分類した。すなわち線維性で核は柵状配列を示すものをA型、網状型で粘液腫状の不規則な変性型で、細胞核は大きく円形で線維性基質が網状を示すものをB型とした。

以来、本腫瘍の起源についていろいろと論じられ、その名称も多種多様であったが、1935年 Stout⁶⁾は、神経由来の線維腫の総括名称を Neurilemmoma と名付けることを提唱し、現在では神経鞘腫は外胚葉性上皮、すなわち Schwann 細胞に由来することが一般に認められ、名称も Neurinoma, Neurilemmoma, Schwannoma が同義語として用いられている⁷⁾。

神経鞘腫は有髄神経の分布する身体のいずれの部位にも発生しうが、部位別発生頻度は遠城寺ら¹⁾によると神経鞘腫 825 例中、頭頸部は 242 例 (29.3%) で最も多

表 1 本邦における Neurilemmoma の顎口腔領域での部位別発現頻度

部 位			症 例 数	
顎 口 腔	舌		50	例
	下	部	9	例
	腔	底	8	例
		蓋	10	例
	上	顎	3	例
	上	顎	5	例
	下	顎	4	例
	口	唇	3	例
	歯	肉	4	例
	歯	槽	1	例
歯	槽	粘 膜	1	例
	肉	頰 移行 部	2	例
頰部、頰骨部側頭下窩			9	例
計			109	例

見附らる

く、次いでく幹、下肢、上肢の順となっており、頭頸部では頸部が最も多く 242 例中 161 例 (66.5%) とその大半を占め、次いで頭部、顔面の順である。顎口腔領域に発生するのは比較のまれのようで、われわれの本邦における顎口腔領域での文献的調査では108例の報告があり、その部位別発現頻度は、表 1 に示すように舌に最も多く 50 例 (45.9%) と約半数を占め、次いで口蓋10例 (9.2%)、顎下部 9 例 (8.2%)、口腔底 8 例 (7.3%) の順であった。顎口腔領域における好発部位である舌においては、特定の部位に限定することなく、舌全域に発生する

表 2-1 舌に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	丸山 亀久治 ²⁴⁾	1934	26	♀	L-舌下部	8 年	異物感	—
2	沖田 桂治 ²⁵⁾	1935	13	♂	R	1 か月	—	—
3	沖田 桂治 ²⁶⁾	1936	19	♂	L-舌根部	1年2か月	none	—
4	蜂須賀正雄 ²⁷⁾	1938	13	♀	舌下面	5 年	舌の運動障害	2.15×1.65×1.85
5	横井 稔, 他 ²⁸⁾	1939	—	—	—	—	—	—
6	六嶋 禎一 ²⁹⁾	1939	28	♀	L-舌根部	5 か月	腫 脹	2.7×1.7×1.5
7	須藤 吾之助 ³⁰⁾	1951	26	♂	L-舌根部	15 年	腫 脹	3×2.5×2
8	町井 浩一, 他 ³¹⁾	1951	17	♂	R-舌下面	4 年	none	2.3×1.1
9	町井 浩一, 他 ³¹⁾	1951	71	♂	R-舌 縁	6 年	異物感	1.8×1.2×1
10	杉山 光作 ³²⁾	1952	20	♂	L-舌 縁	—	—	—
11	百井 一郎 ¹³⁾	1955	17	♂	—	—	—	小指頭大
12	百井 一郎 ¹³⁾	1955	61	♂	—	—	—	小指頭大
13	百井 一郎 ¹³⁾	1955	71	♂	—	—	—	大豆大
14	百井 一郎 ¹³⁾	1955	17	♂	—	—	—	拇指頭大
15	八木 一郎, 他 ³³⁾	1955	15	♂	R-舌 背	2 年	腫 瘤	桜 実 大
16	八木 一郎, 他 ³³⁾	1955	19	♀	舌 尖	6 か月	腫 瘤	梅 干 大
17	中島 政彦, 他 ³⁴⁾	1955	31	♂	R-辺 縁	16 年	腫 瘤	直径 2 cm
18	馬場 甫, 他 ³⁵⁾	1956	60	♂	L-辺 縁	10 か月	咬傷, 圧痛	—
19	時任 純孝, 他 ³⁶⁾	1957	15	♂	R-辺 縁	4 年	言語, 嚥下障害	—
20	大和田一郎, 他 ³⁷⁾	1958	33	♀	R-舌 尖	20 年	自圧痛, 圧痛	2.7×1.8×1.5
21	大和田一郎, 他 ³⁷⁾	1958	34	♀	R-舌 尖	6 か月	腫 瘤	—
22	大和田一郎, 他 ³⁷⁾	1958	60	♀	舌背中央	3 か月	食欲不振, 喀痰	—
23	大和田一郎, 他 ³⁷⁾	1958	22	♀	R-舌下面	6 年	腫瘤, 発音障害	3.5×3.5×3.2
24	野坂 保次, 他 ³⁸⁾	1958	21	♀	L-舌 縁	2 年	腫 瘤	2.1×1.3×1.1
25	高田 和彰 ³⁹⁾	1959	34	♂	L	5 年	腫 瘤	—
26	国府 田中 ⁴⁰⁾	1960	18	♂	L-舌 背	—	—	—
27	塚本 敦, 他 ⁴¹⁾	1960	11	♀	—	—	none	1.2×1.8×1.4
28	栗田口省吾, 他 ⁴²⁾	1961	23	♀	L-舌 背	4 年	腫 瘤	2.5×3×2
29	木村 友七, 他 ⁴³⁾	1961	40	♀	L-舌根部	20 年	発音, 嚥下障害	4.2×3.7
30	木村 友七, 他 ⁴³⁾	1961	18	♂	L-舌 尖	7 年	腫瘤, 発音障害	2.2×1.2
31	市原 正雄, 他 ⁸⁾	1961	18	♂	L-舌 背	3 か月	腫瘤, 発音障害	3.1×3.1×1.6
32	岡田 孝, 他 ⁴⁴⁾	1962	22	♀	R-舌 尖	—	—	—
33	東 夫 分院 ⁴⁵⁾	1963	18	♂	L-舌 縁	5 年	腫 瘤	—
34	田村 浩通, 他 ⁴⁶⁾	1963	19	♂	L-舌 縁	7 か月	腫 瘤	0.6×0.5×0.3
35	岩田 嵩 ⁴⁷⁾	1963	17	♀	舌 背	—	舌運動障害	3.4×2.5×1.8
36	松丸 秀明, 他 ⁴⁸⁾	1964	28	♂	—	—	—	2.5×3.5×2.0
37	野中 兼男 ⁴⁹⁾	1964	15	♂	R-舌 根	—	—	直径 1.5
38	土田 武正, 他 ⁵⁰⁾	1966	14	♀	R-舌 縁	3 年	—	1.2×1.1×0.8
39	杉本 嘉郎 ³⁾	1967	22	♀	舌 尖	6 か月	腫 瘤	2.5×1.7×1.2
40	増田 正樹, 他 ⁵¹⁾	1968	33	♂	L-舌 縁	6 年	—	3×3.3×1.2
41	柿市 利男, 他 ⁹⁾	1968	13	♀	R-舌 根	3 年	嚥下痛	—
42	柿市 利男, 他 ⁹⁾	1968	6	♂	R-舌 尖	1年6か月	—	—
43	荻野 益男, 他 ⁵²⁾	1970	13	♀	R-舌 背	—	—	—
44	梶山 稔, 他 ¹⁰⁾	1975	14	♀	L-舌 縁	1 年	腫 脹	1.0×1.2×0.7
45	藤堂 真, 他 ⁵³⁾	1976	34	♀	R-舌 尖	2 週 間	無痛性腫脹	1.8×1.8

表 2-1 つづき

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
46	松田 登, 他 ⁵⁴⁾	1976	76	♂	舌 尖	2 か 月	異物感	—
47	下里 常弘, 他 ⁵⁵⁾	1976	22	♀	L-舌下面	1 週 間	舌運動障害	—
48	楠 直喜, 他 ⁵⁶⁾	1978	28	♀	L-舌 縁	6 年	腫脹, 嚥下障害	1.7×1.0×0.5
49	菊地 正明, 他 ⁵⁷⁾	1979	26	♂	舌 尖	4 年	none	3.3×2.7×1.8
50	江刺家 隆, 他 ⁵⁸⁾	1979	21	♀	R	2 か 月	none	2.2×1.6×1.4

表 2-2 顎下部に発生した神経鞘腫

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	百井 一郎 ¹⁸⁾	1955	55	♀	L	—	—	超鳩卵大
2	生田 信孝, 他 ⁵⁹⁾	1960	47	♂	R	4 年	R-顎下部腫脹 色素沈着	—
3	谷 一郎, 他 ⁶⁰⁾	1965	53	♀	L	1 年	none	4×3×3
4	谷 一郎, 他 ⁶⁰⁾	1965	39	♀	R-顎下腺	—	圧 痛	5.5×4.5×4
5	川平 淳, 他 ⁶¹⁾	1969	12	♀	R	3 年	R-顎下部腫脹	6.5×3.5×4
6	高橋 良, 他 ⁶²⁾	1969	29	♀	R-顎下部	—	—	—
7	宮川 公文, 他 ⁶³⁾	1973	51	♀	—	—	舌運動麻痺	—
8	高井 克憲, 他 ⁶⁴⁾	1977	50	♂	L-顎下腺	4 年	L-顎下部腫脹	4.5×3.7×3
9	鈴木 勝, 他 ⁶⁵⁾	1978	55	♂	R-顎下腺	6 年	異和感	7×5×5

表 2-3 口腔底に発生した神経鞘腫

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	葛西 真 ⁶⁶⁾	1957	44	♂	口腔底	1 か 月	舌下部の腫脹	—
2	朱雀 直道, 他 ⁶⁷⁾	1965	18	♀	R-口腔底	5 年	舌下部の腫脹	3.1×4.3×2.7
3	金沢 正昭, 他 ⁶⁸⁾	1968	19	♀	R-口腔底	1 か 月	舌運動障害	—
4	黒田 政文, 他 ¹⁵⁾	1969	20	♀	L-舌下部	4 日	17の疼痛	3.5×3.4×2.8 (6~7個)
5	内倉 厚弘, 他 ⁶⁹⁾	1973	41	♀	L-口腔底	—	L-顎下部腫脹	—
6	松村 隆司, 他 ⁷⁰⁾	1973	22	♂	—	10 年	口腔底部腫脹	3.7×3.7×6.3
7	松田 登, 他 ⁵⁴⁾	1976	48	♀	R-舌下, 口腔底	6 か 月	R-口腔底の腫脹	—
8	小島 良, 他 ⁷¹⁾	1978	24	♀	—	4 年	膨 隆	手拳大

表 2-4 口蓋に発生した神経鞘腫

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	井出 守義 ⁷²⁾	1941	51	♂	R-軟口蓋	1 年	腫 脹	—
2	奥田 儀一郎 ⁷³⁾	1957	36	♀	L-軟口蓋	7 年	異物感	3.5×5×2.7
3	正木 光児, 他 ⁷⁴⁾	1961	29	♀	L-口 蓋	8 年	腫 瘤	1.5×1.5×0.8
4	小出 隆康, 他 ⁷⁵⁾	1962	22	♀	R-口 蓋	—	腫 瘤	1.5×0.7
5	福岡 公介, 他 ⁷⁶⁾	1962	29	♀	L-硬口蓋	7 年	腫 瘤	0.5×2.0×1.5
6	松丸 秀明, 他 ⁴⁸⁾	1964	24	♂	L-軟口蓋	—	—	3.5×2.5×2
7	石井 英男, 他 ⁷⁷⁾	1968	19	♀	L-軟口蓋	2 年	腫 脹	2×1.5×1.5
8	滝川 富雄, 他 ⁷⁸⁾	1970	4	♂	R-口 蓋	3 週 間	none	—
9	松田 登, 他 ⁵⁴⁾	1976	20	♀	R-口 蓋	—	腫 脹	—
10	阿部 節子, 他 ⁷⁹⁾	1976	15	♀	—	3 年	腫 脹	—

表 2-5 上顎骨に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	岡野 光雄, 他 ⁸⁰⁾	1965	47	♂	R-上顎骨	—	抜歯窩よりの出血, 鼻閉塞	—
2	林 洋紀, 他 ⁸¹⁾	1978	7	♂	BA 根尖部	2 週間	腫 脹	3×2.5×2
3	山城 正宏, 他 ⁸²⁾	1980	27	♂	前歯部	11 か 月	R-上口唇腫脹	3.5×3×2.5

表 2-6 上顎洞に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	飯田 武雄 ⁸³⁾	1939	47	♂	R-上顎洞	10 か 月	疼痛, 知覚麻痺	—
2	橋本 啓二, 他 ⁸⁴⁾	1957	48	♀	L-上顎洞	13 年	L-頬部腫脹	—
3	土田 武正, 他 ⁸⁵⁾	1961	50	♀	R-上顎洞	1 年	R-眼球突出	—
4	今井 真澄 ⁸⁶⁾	1971	78	♀	R-上顎洞	—	腫脹, 眼球突出	—
5	山下 忍, 他 ⁸⁷⁾	1975	50	♀	R-上顎洞	—	M 部腫脹	— (悪性神経鞘腫)

表 2-7 下顎骨に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	小野 史郎 ⁸⁸⁾	1959	12	♀	L-下顎骨	—	腫 脹	4.2×4.3×3.1
2	中条 信義, 他 ⁸⁹⁾	1971	11	♂	下顎前歯部	2 年	下顎前歯部歯牙傾斜	—
3	田村 鉄也, 他 ⁹⁰⁾	1975	19	♂	R-臼歯部	—	咬合時違和感	3×4
4	木下 靱彦, 他 ⁷⁾	1976	51	♀	L-下顎骨	1 年	none	4.2×2.5×2

表 2-8 口唇に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	荻野 益男, 他 ⁵²⁾	1970	20	♀	L-上口唇	—	—	指示頭大
2	荻野 益男, 他 ⁵²⁾	1970	24	♂	L-下口唇	—	—	大豆大
3	南 正史, 他 ¹⁶⁾	1971	28	♂	R-下口唇	3 年	none	直径 2 mm 10 数個

表 2-9 歯肉, 歯槽部に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	塩谷 裕, 他 ⁹¹⁾	1956	38	♂	76 頬側歯肉	3 か 月	R-上顎のしびれ感, 76 動揺	1×3.5×4
2	高橋 忠彦 ⁹²⁾	1960	29	♂	3 部	3 か 月	L-上口唇の腫脹	3.2×2.2×1.7
3	加藤 俊雄, 他 ⁹³⁾	1970	41	♂	8 遠心部	3 年	腫 瘤	2×1.5×1.5
4	植木 輝一, 他 ⁹⁴⁾	1977	77	♀	R-上顎	8 か 月	腫 脹	—
5	佐藤 匠, 他 ⁹⁵⁾	1978	69	♀	M 部歯槽	1 か 月	腫 脹	1.5×2.0×1.0

表 2-10 歯槽粘膜に発生した神経鞘腫

No.	報告者	報告年	年齢	性	部位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	本 症 例	1980	14	♂	PM 部	10 年	腫 瘤	1×0.7

表 2-11 歯肉頬移行部に発生した神経鞘腫

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	井出 公一, 他 ⁹⁸⁾	1978	42	♀	—	—	—	2.5×2.0×2.0
2	井出 公一, 他 ⁹⁸⁾	1978	18	♂	—	—	—	1.0×0.7×0.7

表 2-12 頬部, 頬骨部, 側頭下窩に発生した神経鞘腫

No.	報 告 者	報告年	年齢	性	部 位	受診までの期間	自覚症状	大きさ (cm)
1	伊集院淳一, 他 ⁹⁷⁾	1963	50	♀	R-側頭下窩	10 か 月	R-上顎歯肉の腫脹	—(2個)
2	林 進武, 他 ⁹⁸⁾	1968	39	♀	R-頬 部	6 年	R-眼窩下部の腫脹	5×5
3	熊谷 星郎, 他 ⁹⁹⁾	1969	19	♀	L-側頭下窩	6 か 月	L-TMJ 部の腫脹, 開口時雑音	4.6×3.6×3.2
4	高橋 良, 他 ⁸²⁾	1969	3	♀	L-頬骨部	—	—	—
5	岡野 光雄, 他 ¹⁰⁰⁾	1970	17	♀	L-頬骨弓下	—	L-頬部腫脹	—
6	下里 常弘, 他 ⁵⁵⁾	1976	55	♂	L-耳介前部	—	none	—
7	深谷 昌彦, 他 ¹⁰¹⁾	1976	39	♂	R-頬 部	3 年	L-頬部の腫脹	—
8	岸村 真澄, 他 ¹⁰²⁾	1977	52	♀	R-頬 部	1 年	腫 瘤	2.5×2.2×1.8
9	野堀 幸夫, 他 ¹⁰³⁾	1979	29	♀	R-頬粘膜	1 年	腫 瘤	1.1×0.7×0.7

表 3 本邦における Neurilemmoma の顎口腔領域発現の性差ならびに年齢分布

年 齢	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70以上	計
男	3	17	10	5	5	4	2	3	49
女	1	16	19	6	5	8	2	2	59
計	4	33	29	11	10	12	4	5	108

表 4 本邦における Neurilemmoma の顎口腔領域での左右別発現頻度

右 側	46 例
左 側	40 例

ようである⁸⁻¹¹⁾。性差は女性に多く発生するようであるが¹¹⁾, われわれの調査でも女性に多く発生し, 男女比は1:1.2であった。また左右差はほとんど認められず, 好発年齢は10代と20代で, 半数以上を占めていた(表1~4)。

神経鞘腫はすべての Primary tumor の8%を占め, 聴神経に圧倒的に多く, 特に Vestibular branch に多くみられ, 三叉神経は比較的まれであり, 運動神経より感覚神経に多い¹²⁾。百井¹³⁾の神経鞘腫115例についての調査では聴神経鞘腫が最も多く31例(27.0%), 次いで脊髄神経鞘腫の18例(15.7%)であった。

腫瘍の大きさは小指頭大から鶏卵大が多く, 腫瘍は一塊となっているのが通常であるが, 数個から数10個より

なっていた報告もある¹⁴⁻¹⁶⁾。また, ほとんどのものは単独で発生するが, 多発性の報告もある^{13, 17, 18)}。

受診までの期間は気づいてから数日から20年と開きがあるが, 一般的には数か月から数年で, 平均約3年である。これはほとんどの症例で疼痛や機能障害がなく, 主要症状が腫瘍や腫脹で, 発育も大変緩慢であると思われる。

組織学的には, 紡錘形ないし楕円形の核を有する双極性の細長い細胞が, 密に束状をなして増殖し, または渦巻状に配列し, しばしば核が特有な柵状あるいは観兵式様の配列を示し, あるいは Verocay 体とよばれる小体を作る Antoni A 型と, 細胞はまばらに配列し, 多極性の細胞質突起をもって互いに連絡し細線維も乏しく, 走向も不規則で, しばしば泡沫細胞の出現, 粘液様変性, 出血, 嚢胞形成を伴う Antoni B 型に分類されているが¹⁹⁾, Willis²⁰⁾は, さらに Epitheloid type を加えて, 3型に分類している。Antoni A 型と B 型はそれぞれ独立した腫瘍としてみられることがあるが, 多くは1つの腫瘍の中で両型が入り混っているようである²¹⁾。

Neurilemmoma は通常、神経線維を内部に含まず、神経鞘に付着した良性腫瘍で、被膜におおわれ限局性で緩慢な発育を示すが、ときとして悪性像を示す。われわれの文献的に集め得た本邦108例と自験1例中、悪性像を示したものは1例にすぎず、悪性神経鞘腫は大変まれなものといえる。悪性神経鞘腫は既存の神経鞘腫や、Neurofibromatosis, von Recklinghausen 氏病などが悪性化したものであるという説^{22,23)}と、神経鞘腫が悪性化するのではなく、最初から Neurogenic sarcoma のような悪性腫瘍として発生する悪性神経鞘腫というものが別にあり、その約半数が von Recklinghausen 氏病と関係があるという説⁹⁾があり、定説はないようである。

ま と め

われわれは、14歳男性の左側下顎小白歯部歯槽粘膜に発生した神経鞘腫の1例を経験したので、その概要を報告し、また、弾渉し得た本邦における顎口腔領域での既報108例と自験1例より、若干の知見を得たので報告した。

引 用 文 献

- 1) 遠城寺宗知, 他: わが国における良性軟部組織腫瘍—8,086例の統計的観察—。癌の臨床 20: 594 1974.
- 2) 林 洋紀, 他: 上顎骨に発生した神経鞘腫の1症例。日口外誌 25: 191 1979.
- 3) 杉本嘉郎: 舌神経鞘腫の1例。耳鼻臨床 60: 744 1967.
- 4) Verocay, J.: Zur Kenntnis der Neurofibrome. Ziegler Beiträge zur path Anat 48: 1 1910.
- 5) Antoni, N.R.E.: Über Rückenmarkstumoren und Neurofibrome. J.F. Bergmann, München, 1920.
- 6) Stout, A.P.: The peripheral manifestations of the specific nerve sheath tumor (Neurilemmoma). Am J Cancer 24: 751 1935.
- 7) 木下毅彦, 他: 広汎な石灰化を伴った下顎骨中心性神経鞘腫の1例。日口外誌 22: 488 1976.
- 8) 市原正雄, 他: 舌神経鞘腫の1例。耳喉 33: 137 1961.
- 9) 柿市利男, 他: 舌に発生した神経鞘腫の2例。口病誌 35: 376 1968.
- 10) 梶山 稔, 他: 舌神経鞘腫の1例。日口外誌 21: 328 1975.
- 11) Hatziotis, J. Ch., et al.: Neurilemmoma (Schwannoma) of the oral cavity. Oral Surg 24: 510 1967.
- 12) Rubinstein, L.J.: Tumors of the central nervous system. second series, AFIP, Washington, D.C., 1970, p 205.
- 13) 百井一郎: 神経鞘腫の病理学的研究。新潟医学会誌 69: 737 1955.
- 14) 田島時博, 他: Schwannoma の症例ならびに文献的考察。日口外誌 14: 88 1968.
- 15) 黒田政文, 他: 舌下部に発生した神経鞘腫の1例。口科誌 18: 104 1969.
- 16) 南 正史, 他: 下口唇にみられた Neurilemmoma の1例。日口外誌 17: 509 1971.
- 17) 大浦重光, 他: 耳下腺部並びに頬部に発生せる Neurinoma の1例。口科誌 20: 894 1971.
- 18) 林 進武, 他: 多発性神経鞘腫の1例。日口外誌 18: 162 1972.
- 19) 石川梧朗, 秋吉正豊: 口腔病理学Ⅱ, 初版, 永末書店, 京都, 東京, 1975, p 1001.
- 20) Willis, R.A.: Pathology of tumors. ed 6, Butterworth, London, 1960, p 842.
- 21) 米沢 猛: 末梢神経線維の腫瘍。最新医学 23: 592 1968.
- 22) Eversole, L.R.: Central benign and malignant neural neoplasms of the jaws. J Oral Surg 27: 716 1969.
- 23) D'Agostino, A.N., et al.: Primary malignant neoplasms (malignant neurilemmomas) in patients without manifestations of multiple neurofibromatosis (von Recklinghausen's disease). Cancer 16: 1003 1963.
- 24) 丸山亀久治: 極メテ稀有ナル舌腫瘍ノ一例。大日耳鼻会報 40: 224 1934.
- 25) 沖田桂治: 舌ノ良性腫瘍及肉芽腫ニ就テ。東北医学会雑誌 18: 467 1935.
- 26) 沖田桂治: 舌ノ良性腫瘍。東北医学会雑誌 19: 17 1936.
- 27) 蜂須賀正雄: 舌ニ発生セル「ノイリノーム」ノ一例。口病誌 12: 326 1938.
- 28) 横井 稔, 他: 舌「ノイリノーム」の供覧。大日耳鼻会報 46: 438 1939.
- 29) 六嶋禎一: 「ノイリノーム」に関する綜説並びに舌に発生せる其一例。耳喉 12: 851 1939.
- 30) 須藤吾之助: (イ)左舌根部ノイリノーム1例。日耳鼻 54: 549 1951.
- 31) 町井浩一, 他: 舌ノイリノームの2例。耳鼻臨床 44: 184 1951.
- 32) 杉山光作: 舌に発生せるノイリノームの1例。日耳鼻 55: 752 1952.
- 33) 八木一郎, 他: 舌神経鞘腫の2例について。口外誌 1: 86 1955.
- 34) 中島政彦, 他: 舌に発生した神経鞘腫 (Neurinoma) の一症例。口外誌 1: 57 1955.
- 35) 馬場 甫, 他: 舌に発生せる神経鞘腫。臨外 11: 431 1956.
- 36) 時任純孝, 他: 稀有なる舌神経鞘腫の1例。日外会誌 57: 1779 1957.
- 37) 大和田一郎, 他: 舌に発生せるノイリノームの4症例。耳展 1: 235 1958.
- 38) 野坂保次, 他: 舌ノイリノーム症例。耳喉 30: 971 1958.

- 39) 高田和彰：舌に発生せる神経鞘腫の一例に就て、*阪大歯誌* 4: 1084 1959.
- 40) 国府田中：舌神経鞘腫の1例、*日耳鼻* 63: 2420 1960.
- 41) 塚本 教，他：舌ノイリノームの1例、*日耳鼻* 63: 881 1960.
- 42) 栗田口省吾，他：舌良性腫瘍(ノイリノーム)、*日耳鼻* 64: 172 1961.
- 43) 木村友七，他：舌に発生した神経鞘腫の2例、*口科誌* 10: 190 1961.
- 44) 岡田 孝，他：舌に発生した神経鞘腫の1例、*口科誌* 11: 252 1962.
- 45) 東大分院：舌に発生した Neurilemmoma の1例、*日皮会誌* 73: 235 1963.
- 46) 田村浩通，他：舌神経鞘腫に就いて、*耳鼻臨床* 56: 506 1963.
- 47) 岩田 嵩：舌に発生した巨大なる神経鞘腫の1例、*東医大誌* 21: 133 1963.
- 48) 松丸秀明，他：舌及び軟口蓋 Neurinoma 2症例、*日耳鼻* 67: 207 1964.
- 49) 野中兼男：舌ノイリノーム症例、*日耳鼻* 67: 1649 1964.
- 50) 土田武正，他：舌神経鞘腫の1例、*日耳鼻* 69: 1384 1966.
- 51) 増田正樹，他：舌にみられた神経鞘腫の1例、*日口外誌* 14: 222 1968.
- 52) 荻野益男，他：舌、口唇に発生した神経鞘腫の3例について、*口科誌* 19: 418 1970.
- 53) 藤堂 真，他：舌に発生した神経鞘腫の1例、*口科誌* 25: 352 1976.
- 54) 松田 登，他：神経鞘腫の症例とその電顕所見について、*口科誌* 25: 445 1976.
- 55) 下里常弘，他：神経鞘腫の電子顕微鏡ならびに組織培養による観察所見について、*口科誌* 25: 396 1976.
- 56) 楠 直喜，他：舌に発生した神経鞘腫の1例、*日口外誌* 24: 1340 1978.
- 57) 菊地正明，他：舌神経鞘腫の1例、*日口外誌* 25: 419 1979.
- 58) 江刺家隆，他：舌に生じた神経鞘腫について、*日大歯学* 53: 173 1979.
- 59) 生田信孝，他：顎下部に発生した神経鞘腫 Schwannoma の1例、*口外誌* 6: 189 1960.
- 60) 谷 一郎，他：顎部並びに顎下腺ノイリノームの症例、*耳喉* 37: 879 1965.
- 61) 川平 淳，他：顎下部に発生した神経鞘腫の1例、*日口外誌* 15: 267 1969.
- 62) 高橋 良，他：耳鼻科領域の Neurilemmoma について(耳、副鼻腔、咽頭等)、*日耳鼻* 72: 1777 1969.
- 63) 宮川公文，他：顎下部にみられた神経鞘腫症例、*日耳鼻* 76: 410 1973.
- 64) 高井克憲，他：顎下腺部に発生した Neurinoma の1例、*日口外誌* 23: 521 1977.
- 65) 鈴木 勝，他：顎下腺部に発生した Neurinoma の1例、*口科誌* 27: 456 1978.
- 66) 葛西 真：口腔底 Neurinoma の1例、*耳鼻と臨床* 4: 57 1957.
- 67) 朱雀直道，他：口腔底に発生した神経鞘腫の1例、*口科誌* 14: 159 1965.
- 68) 金沢正昭，他：神経線維腫症と神経鞘腫、*口科誌* 17: 587 1968.
- 69) 内倉厚弘，他：口底に発生した神経鞘腫の1例、*日口外誌* 19: 107 1973.
- 70) 松村隆司，他：神経鞘腫の1症例について、*歯科医学* 36: 331 1973.
- 71) 小島 良，他：口底部に発生した Neurinoma の1例、*口科誌* 27: 455 1978.
- 72) 井出守義：軟口蓋に発生せる「ノイリノーム」の1例、*大日耳鼻会報* 47: 745 1941.
- 73) 奥田義一郎：軟口蓋に発現せるノイリノームの1症例、*耳喉* 29: 929 1957.
- 74) 正木光児，他：口蓋に発生した Neurinoma の1例、*口科誌* 10: 286 1961.
- 75) 小出隆康，他：口蓋ノイリノームの1例、*新潟医学会誌* 76: 443 1962.
- 76) 福岡公介，他：硬口蓋に発生した Neurinoma の1例、*口科誌* 11: 196 1962.
- 77) 石井英男，他：神経鞘腫(Neurilemmoma)の電子顕微鏡像について、*耳鼻臨床* 61: 231 1968.
- 78) 滝川富雄，他：小児の口蓋に生じた神経鞘腫の1例、*日大歯学* 44: 9 1970.
- 79) 阿部節子，他：臨床的に悪性を疑わせた口蓋部神経鞘腫の1例、*口科誌* 25: 164 1976.
- 80) 岡野光雄，他：上顎骨に発生した神経鞘腫の1例、*口科誌* 14: 164 1965.
- 81) 林 洋紀，他：上顎骨に発生した神経鞘腫の一症例、*口科誌* 27: 456 1978.
- 82) 山城正宏，他：上顎骨に生じた神経鞘腫の1例、*日口外誌* 26: 767 1980.
- 83) 飯田武雄：上顎洞上壁「ノイリノーム」、*耳喉* 12: 73 1939.
- 84) 橋本啓二，他：左側上顎洞内に発生せる Neurinoma の1例、*日耳鼻* 60: 1225 1957.
- 85) 土田武正，他：右上顎洞内に生じた神経鞘腫の1例、*日耳鼻* 64: 1042 1961.
- 86) 今井真澄：右上顎洞に発生した神経鞘腫の一症例、*耳喉* 43: 305 1971.
- 87) 山下 忍，他：上顎洞に発生した悪性神経鞘腫の1例、*日口外誌* 21: 852 1975.
- 88) 小野史郎：下顎骨に発生した神経鞘腫の1例、*口科誌* 8: 117 1959.
- 89) 中条信義，他：下顎骨内に発生した Neurinoma の1例、*口科誌* 20: 273 1971.
- 90) 田村鉄也，他：下顎骨に発生した Neurilemmoma の1例、*日赤医学* 27: 200 1975.
- 91) 塩谷 裕，他：右側上顎歯肉に発生せる Neurinoma の1症例、*耳鼻臨床* 49: 106 1956.
- 92) 高橋忠彦：歯齦部に発生した Neurinoma の1例、*耳喉* 32: 471 1960.
- 93) 加藤俊雄，他：下顎智歯遠心部に発生した神

- 経鞘腫の1例. 歯科学報 70: 130 1970.
- 94) 植木輝一, 他: 上顎歯肉部に発生した Neurinoma の1例. 日大医誌 36: 334 1977.
- 95) 佐藤 匠, 他: 下顎歯槽部に発生した神経鞘腫の1例. 京大口科紀要 18: 88 1978.
- 96) 井出公一, 他: 下顎歯肉頬移行部に発生した神経鞘腫の2症例. 口科誌 27: 455 1978.
- 97) 伊集院淳一, 他: 側頭下窩に生じた神経鞘腫の1例. 口外誌 9: 293 1963.
- 98) 林 達武, 他: 頬部に発生した Neurinoma の1例. 口科誌 14: 83 1968.
- 99) 熊谷星郎, 他: 頬骨弓深部に生じた Neurilemmoma の1例. 日口外誌 15: 267 1969.
- 100) 岡野光雄, 他: 頬骨弓下に発生した神経鞘腫の1例. 口科誌 19: 418 1970.
- 101) 深谷昌彦, 他: 頬部に発生した神経鞘腫の1例. 愛院大歯誌 14: 129 1976.
- 102) 岸村真澄, 他: 頬部に発生した神経鞘腫の1例. 口病誌 44: 471 1977.
- 103) 野堀幸夫, 他: 頬粘膜部に発生した神経鞘腫の1例. 日口外誌 25: 441 1979.